

# CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月  
発行日：毎月15日・月末  
PDFによる発行

オンライン会議（ビデオ/Web/音声）システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 26 No.14 2024年7月31日

## 製品・サービス動向-国内

### ■ギンガシステム：DTEN 社の Zoom Rooms 対応 AI 搭載ビデオ会議ソリューションでオンライン接客と常時接続型コラボレーションを実現

(PRTIMES:7月25日)

ギンガシステム株式会社 (<https://ginga-sys.jp/>) (大阪府大阪市) は、法人向けに DTEN 社 (米国・カリフォルニア州) が提供するオールインワン会議ソリューションの販売を7月24日より開始する。



常時接続・オンライン接客

×

Zoom Rooms対応



AI会議ソリューションで実現

常時接続・オンライン接客、Zoom Rooms 対応  
AI 会議ソリューション (ギンガシステム)

近年、働き方改革やテレワークの普及に伴い、オンラインコミュニケーションの重要性は急速に高まった。しかし、多くの企業では、テレワーク、会議室それぞれから参加するハイブリット会議の機器選定や社内運用に課題を抱えている。また、近年では、Zoom などのオンラインコミュニケーションサービスは会議用途にとどまらず、常時接続・オンライン接客・無料受付へとその利用シーンに広がりを見せている。

ギンガシステムは、創業以来28年以上にわたり、

自社開発のテレビ会議システムを提供してきた実績がある。この豊富な経験と専門知識を活かし、企業が直面するオンラインコミュニケーションの課題解決に取り組む。

ギンガシステムは、オフィスフロアや中・規模のミーティングスペースまでさまざまな環境に適用可能な柔軟なシステムを提供する DTEN 社の製品を通じて、(1) 離れたオフィス間を仮想的に一体化し (常時接続) し、スムーズな情報共有と協業を実現、(2) オンライン接客を活用した商圏拡大、採用効率化、コールセンター統合、(3) リアルとオンラインを組み合わせたハイブリットワーク環境の構築、に対応したソリューションを提供し、企業の生産性向上と効果的なコミュニケーション環境の構築を支援する。

導入サポートについては、お客様のニーズに合わせたコンサルティングから導入・運用までワンストップで提供する。経験豊富な専門スタッフがお客様の業務環境や目的に最適なソリューションを提案し、スムーズな導入と運用を支援するという。

### ■エレコム：180 度広角カメラ・スピーカー・マイク一体型ビデオバーを8月下旬より新発売

(PRTIMES：7月23日)

エレコム株式会社 (<https://www.elecom.co.jp/>) (大阪府中央区) は、4名程度のミーティングルームから30名程度の大規模会議室まで対応した180度広角カメラ・スピーカー・マイク一体型ビデオバー (型番：UCAM-VB60FBGY) を8月下旬より新発売する。

本製品は、2つのレンズにより水平角 180° の画角を確保し、大きな会議室でも端から端まで捉え参加者全員をしっかりと映すことができる（カメラ：1/3 型 CMOS センサー・有効画素数：約 410 万画素、固定フォーカス、撮影距離：0.32m～無限遠）。カメラを使用していない際にレンズを物理的に遮断できる着脱可能なレンズ保護カバーもついている。



180 度広角カメラ・スピーカー・マイク一体型ビデオバー（エレコム）

AI 技術を応用し、人物を検知して撮影範囲を自動調整するオートズーム機能を搭載。参加人数に関わらず人物を自動で検出し、常に最適な画角に調整でき、見やすい映像に整える。また、話者を識別し、“発言中マーク”を表示。今誰が話しているかが明確になり、発言のタイミングがわかりやすくなるなど円滑な会議運営をサポートする。

無料でダウンロードできる設定ソフトウェアを使用すると、オートズームや発話者マーキングなど各種機能の ON/OFF や、撮影範囲の広さ・ズームの追従感度の設定、明るさ・鮮やかさなどの画質調整も可能となっている。

マイクにおいては、ビームフォーミングマイク（収音範囲：正面約 6m）を搭載しており、ノイズを抑圧した収音が可能で発言者の声をクリアに拾うことができる。また、本体上部に、Web 会議に便利なマイクミュートスイッチを搭載している。

スピーカーは広い会議室でも奥まで聞こえやすい最大 5W の出力に対応している。約 10m 先にもクリア

な音声を届けることができる（\*同社検証の結果）。

本体にはリモコンがついており、直感的な操作が可能となっている。デスクに座ったままカメラのが画角の調整やズーム操作なども行える。

設置については、クリップ方式でディスプレイに挟んで設置したり、付属のスタンドを使用することでデスク上などの水平面への設置も可能となっている。また、ディスプレイやパソコンから接続するケーブルは 1 本で済むため、デスクもすっきり使える。

価格は、79,800 円（店頭実勢価格、税込み）。購入はエレコムダイレクトショップ（楽天市場店・Yahoo!ショッピング・本店）。環境にやさしい「THINK ECOLOGY」認定製品。

## ビジネス動向-国内

### ■Bloom Act：ダイレクトコール機能で、オンライン商談システム「ROOMS」が特許取得

（PRTIMES：7 月 23 日）

株式会社 Bloom Act (<https://www.bloomact.co.jp/>)（茨城県つくば市）は、自社開発したオンライン商談システム「ROOMS」の「ダイレクトコール（即時接続）」が特許を取得したことを発表した。

ROOMS (<https://www.rooms-online.jp/>) は BtoC に特化したオンライン商談の予約・商談実施・契約・記録・分析までワンストップで実現できるシステム。特許を取得したダイレクトコール（即時接続）はお客様からのワンクリックで即時オンライン商談の接続が行える。特許番号は 7519648 号、登録日は 2024 年 7 月 11 日。

通常の Web 会議システムでは、お客様側から企業スタッフの呼び出しを行うことができなかった。しかし、ダイレクトコール機能では、お客様側から、企業のスタッフをワンクリックで呼び出すことができるため、電話をかけるような感覚で企業側とつながることがで

きる。加えて、対応可能スタッフの割り振りがすべて自動で行われるため、企業側のアサイン作業は不要という。



#### ダイレクトコールの仕組み (BloomAct)

今回の機能の発明により ROOMS は、(1) 企業スタッフ操作による予約商談、(2) お客様操作による予約商談、(3) 企業スタッフ操作による即時商談、(4) お客様操作による即時商談、これら4つの接続方法に対応した唯一のサービスになる。

活用方法としては、お客様が自宅からつなぐという方法がある。自社ホームページ、会員マイページなどのクローズな場所、「今すぐ相談する」といったボタンリンクを設置し、ページに訪れたお客様が非常に簡単な操作で、企業側のスタッフとコンタクトが取れる。自宅にいながら足を運んだときと変わらない接客・案内を受けることが可能という。

また、お客様が店舗からつなぐという方法もある。混雑が見込まれる店舗窓口にオンライン窓口専用の端末を設置。来店されたお客様がその端末のボタンをクリック(タップ)することで、別な場所にいる相談オペレータを呼び出し、手続き案内等を受けることが可能になる。店舗の混雑緩和はもちろんのこと、専任スタッフを集約することで人員配置の最適化にも大きく寄与するという。

## ■RevComm：融資を含む総額 15.8 億円のプレシリーズ B 資金調達実施

(PRTIMES：7月19日)



### プレシリーズ B ラウンド 15.8 億円資金調達 (RevComm)

株式会社 RevComm (<https://www.revcomm.co.jp/>) (東京都渋谷区、以下、レブコム) は、融資を含む総額 15.8 億円のプレシリーズ B 資金調達を実施したと発表。この度の調達により累計調達額は 49.5 億円になる。

レブコムは、既存株主である Sony Innovation Fund by IGV、WiL、ALL START SAAS FUND に加え、今回新たに Salesforce Ventures および tb Innovations の 5 社を引受先としたシリーズ B ラウンドを実施した。UPSIDER Capital を運営会社とした UPSIDER BLUE DREAM Fund からの融資およびマネーフォワードケッセイ社からのアセットファイナンスと合わせ、本ラウンドでの調達金額は総額 15.8 億円となる。

レブコムが資金調達を公表するのは 2020 年 10 月のシリーズ A ラウンド (累計調達額 15 億円でクローズ) 以降約 4 年ぶりとなり、2022 年以降に商工組合中央金庫、SBI 新生銀行、日本政策金融公庫、静岡銀行、三菱 UFJ 銀行より実施した 17 億円の融資と合わせ、累計資金調達総額は 49.5 億円となった。

今回の調達による資金は、既存提供サービスであるトーク解析 AI「MiiTel」(「MiiTel Phone」「MiiTel Call Center」「MiiTel Scan to Call」「MiiTel Meetings」「MiiTel RecPod」) の開発・販売体制の強化を図るとともに、更なる新規サービスの開発促進に向けた研

究開発、海外進出、組織基盤整備等の事業投資に充当する方針という。

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■オンライン会議【革命】ハンズオンセミナー プロから学ぶ！マイクデバイスと Rooms のエクスペリエンスデザインをご紹介

日時：9月19日(木)午前の部 [9:30 開場 10:00 開演]

9月19日(木)午後の部 [14:30 開場 15:00 開演]

9月20日(金)午前の部 [9:30 開場 10:00 開演]

9月20日(金)午後の部 [14:30 開場 15:00 開演]

会場：SHURE 東京エクスペリエンスセンター

主催：VTV ジャパン株式会社

協賛：SHURE、Lenovo、Aver

詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/2409vtv/>

#### ■ブイキューブセミナー情報（8月）

「V-CUBE EVENT SUMMIT 2024」「ビジネス電話改革！クラウド PBX でどう変わるのか？」「ウェビナー開催入門」など

会場：オンライン／オンデマンド

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

#### ■Webex Meetings 関連ウェビナー（8月）

「【利用者向け】今月の Webex アップデート活用方法(8月)」など

会場：オンライン／オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：[https://www.cisco.com/c/m/ja\\_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html](https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html)

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

#### ■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

#### ■X（Twitter）（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

#### ■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

## 定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2024年7月31日号

ホームページ：<https://cnar.jp> お問い合わせ：[cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)